



Dai 1 NAIKA News

三重大学病院 令和 5 年 8 月 31 日
循環器内科、腎臓内科
季刊紙【第 27 号】

発行/三重大学大学院医学系研究科
循環器・腎臓内科学
〒514-8507 津市江戸橋 2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

代 表 挨 拶



循環器・腎臓内科学
教授 土肥 薫

皆さま、お元気にお過ごしのことと存じます。2020 年 7 月 1 日に循環器・腎臓内科学の教授に就任して 3 年が経過しました。同門の先生方のご尽力により、若手医師は年々増え、私の教授就任から 3 年間の循環器内科・腎臓内科の入局者数は 25 名で、女性医師の割合も約 30 パーセントと、これまでにない高い割合となりました。男性医師、女性医師共に今後の益々の活躍に期待が高まります。循環器領域は、弁膜症など Structural Heart Disease に対するカテーテル治療が急速に進歩しておりますが、三重大学でも経カテーテル大動脈弁治療（TAVI）や僧帽弁クリップ術に加え、最近では栗田泰郎先生を中心に卵円孔開存（PFO）閉鎖術や左心耳閉鎖術など多くのカテーテル治療を実施しております。高齢や併存症のために手術リスクが高い患者様や、薬物治療に難渋するような患者様であっても、これらのカテーテル治療により早期回復される、あるいは将来の心血管リスクが軽減されるといったことが期待されます。重症心不全・重症心筋梗塞に対する補助循環用ポンプカテーテルの使用経験もかなり蓄積され、全国に誇れる治療成績を挙げております。また、癌診療の急速な発展に伴い、

腫瘍循環器分野のエキスパートが必要となります。中森史朗先生や市川瑞貴先生が中心となり、腫瘍循環器分野を発展させていきたいと考えております。岡本隆二先生を中心に循環器領域のゲノム診療も更に拡充していく予定です。今後の地域医療を支えるためには医療 DX の促進が重要となります。藤本直紀先生、伊藤弘将先生が中心となり、心不全アプリ「ハートサイン」の臨床研究、実用に向けて取り組んでおります。腎臓内科では、片山鑑先生と村田智博先生が中心となり、慢性糸球体腎炎に対する先進的な診療・研究を行い、慢性腎臓病（CKD）の進行を遅らせることを目標としております。進行してしまった CKD 患者に対しても、移植コーディネーター・看護師・臨床工学技師などのメディカルスタッフと共に腎移植・腹膜透析・血液透析の 3 つの腎代替療法に関して療法選択外来で説明し、血液透析だけでなく生体腎移植や腹膜透析の普及などに力を入れています。また、CKD の普及・啓発活動の一環として三重県の CKD シールを作成し、お薬手帳に貼ることにより患者様や薬剤師の方々にも腎機能について気を配っていただけるような取り組みを続けております。循環器内科、腎臓内科ともに診療体制は年々充実しておりますので、お気軽に患者様をご紹介いただけますと幸いです。同門の先生方におかれましては、日頃から多大なるご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。今後とも一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

循環器のゲノム診療について



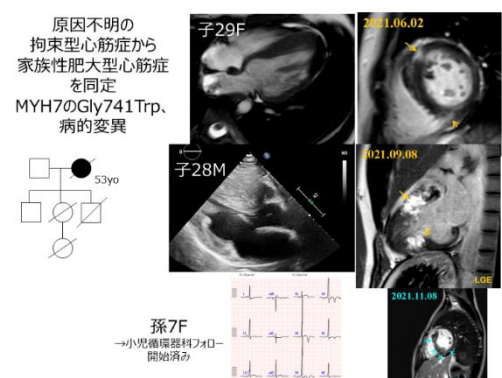
臨床研修・キャリア支援部
教授 岡本 隆二

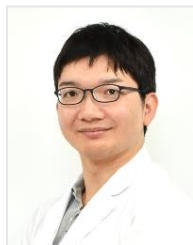
以前からNHKスペシャルでは「ゲノム、それは感じる事が出来ない、しかしそれはそこにある。」と表現され、非常に的を射ていると思います。血行動態やBNPなどは感覚的に理解できるのですが、この領域は意識しないといつまでたっても理解が進まないからです。

マルファン症候群の遺伝子検査については既に保険診療になっており、当院ではかずさDNA研究所と連携し、電子カルテからそのままオーダーが可能です。

当科では、2015 年から「原因不明の重症心筋疾患」の遺伝子検査を行っております。現在は大阪大学と連携し、全エクソームシーケンシングを行い、原因が同定できた場合は、当科で他の家族の解析を行ないます。「重症」の定義はあいまいですが、≒「若年死し得る」と考えて下さい。保険外診療で研究として行っているため、患者負担金はありません。以前 DCM は心筋炎の成れの果てと言われていましたが、現在は、タイチンをはじめとするサルコメアタンパク質の短縮変異が主因と判明しています。さらにアルコール性心筋症や産褥心筋症も、この DCM の変異を持った患者が発症することが多いことが明らかにされました。ラミンおよびRBM20 が原因の DCM 患者は、従来の治療に反応せず、心臓移植を要する可能性が高まります。このため、重症心不全をみる医師は、ゲノムの知識はマストにな

っていますし、ゲノムの情報無しに心筋症患者の議論をしても、浅いものになってしまいます。遺伝子解析を行う目的は、患者の予後予測と、患者の若い家族への早期介入を行ない、若年死を防ぐことです。親から診断し、子供を当科で、孫を小児科でフォローしている HCM（図）および DCM 家系があります。最近では早期の ARB 投与が心筋症の進行を遅らせることが証明されており、先制治療が必要な時代です。若年時に遺伝子異常を言われるのは、患者様としてはつらいことありますが、それらを共有して、サポートし続けることがとても重要です。先生方の外来で家族歴が濃厚な心筋症患者あるいは、家族歴が無くても重症な心筋症の患者様がおられましたら、ご家族の若年死を防ぐために、是非水曜の岡本初診外来までご紹介をお願いいたします。また若い先生方で、重症の心筋症治療に興味がある先生は森脇先生や私までご一報下さい。





腎臓内科 助教 鈴木 康夫

2023 年 4 月に三重大学医学部附属病院に戻ってきた、鈴木康夫と申します。出身は三重県であり、三重大学卒業です。専門は腎臓、膠原病であり、様々な角度から診療できるように頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



腎臓内科 助教 齋木 良介

2013 年卒の齋木良介と申します。四日市市出身です。2023 年 3 月まで尾鷲総合病院に勤務し、4 月より再度三重大学勤務となりました。まだ至らぬ点も多いとは思いますが、日々精進していきますので、宜しく御願ひ致します。



循環器内科 医員 西田 圭吾

平成 31 年卒の西田圭吾と申します。令和 5 年 4 月より三重大学医学部附属病院での勤務となりました。新しい勤務先で日々勉強させていただいております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



循環器内科 医員 前川 瑛亮

平成 31 年卒の前川瑛亮と申します。四日市羽津医療センターで初期研修を修了し、桑名市総合医療センターにて 2 年間勤務しておりました。三重県の医療の粋を経験し、良き医師になれるように精進してまいります。

新任医師紹介

循環器内科 助教 高崎 亮宏

2 年間、豊橋ハートセンターで冠動脈のカテーテル治療を中心に研鑽を積んできました。若手の先生方と一緒に県内のインターベンション治療の更なるレベルアップができるよう精進していきたいと思います。



循環器内科 医員 笠井 洋祐

平成 31 年卒の笠井洋祐と申します。卒業後 4 年間市立四日市病院で勤務し、令和 5 年 4 月より三重大学医学部附属病院で勤務させていただいております。至らぬ点もあると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。



腎臓内科 医員 福森 あゆみ

平成 31 年卒の福森と申します。今春より三重大学医学部附属病院で勤務させていただいております。未熟者ですが、患者様のお力になれる様に精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



ワンポイントレクチャー Watchman の診療について

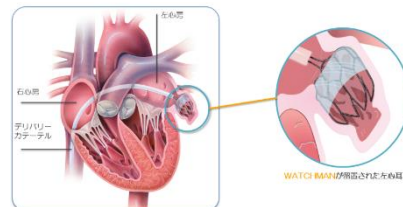


循環器内科 講師 栗田 泰郎

心房細動患者様に朗報です！

三重大学医学部附属病院循環器内科にて新しいカテーテル治療が始まりました。左心耳閉鎖術です。心房細動により生じる血栓の 90% 以上が、左心耳に形成されます。経皮的左心耳閉鎖術は、この左心耳を閉鎖栓により閉鎖することで血栓の形成を防ぎ、脳卒中を予防するカテーテル治療です。本治療を行う事で抗血栓薬を中止、もしくは減量することが出来るため、出血性合併症のリスクを大幅に軽減する事が可能となります。出血のリスクが高く抗凝固の継続が困難、もしくは懸念される患者様。さらに抗凝固療法にも関わらず脳梗塞を呈した患者様などが良い適応とされております。先生方の心房細動患者様で抗凝固療法のマネージメントにお困りの患者様がいらっしゃいましたら是非、御紹介ください。全身麻酔下での治療になりますが、3 泊 4 日の入院にて治療が行えます。

(詳しくはボストンサイエンティフィック社の HP 参照ください。
<https://www.laac.jp/hcp/home.html>)右記の図は HP より改変



循環器内科 腎臓内科 外来担当医表		月	火	水	木	金
循環器	初診	土肥 薫 伊藤正明 栗田泰郎	藤本直紀 香川芳彦	岡本隆二 藤田 聡	杉浦英美喜	荻原義人 位田瑞貴 循環器内科 外来
	再診	伊藤正明 栗田泰郎 森脇啓至 岡本隆二 大森 拓 高崎亮宏 藤本直紀 石山将希 A* -Sメカ- 外来	荻原義人 土肥 薫 水谷花菜	岡本隆二	杉浦英美喜 香川芳彦 佐藤 圭	荻原義人 藤田 聡 藤本直紀 佐藤 徹
腎臓	初診	齋木良介	村田智博	小田圭子	片山 鑑	鈴木康夫
	再診	片山 鑑	鈴木康夫	齋木良介	休 診	村田智博

第一内科ホームページをリニューアルしました！

<https://www.sv.hosp.mie-u.ac.jp/naika1/>

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先（直通）

内科外来：059-231-5146

病 棟：059-231-5101

F A X：059-231-5518

研 究 棟：059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科 HP まで。naika1@med.mie-u.ac.jp